自　然　観　察　会

平成２３年２月１３日

ＮＰＯ法人「**四季の森　里山研究会**」
尾崎・金森・川窪・武本

立春も過ぎ、この四季の森公園にも春の息吹が感じられます。
日本海側では豪雪が伝えられ、人々の雪との戦いが毎日報じられております。
雪を観ることが少ない皆さんにとっては、如何でしたでしょうか。
さて、今月の自然観察会のテーマは「鳥」です。
林野を探索しながら観察し、鳥にまつわる話題や魅惑的なさえずりと生態を楽しみましょう。

この季節　四季の森公園で観られる野鳥

①　はす池とその周辺	カルガモ　マガモ　カイツブリ　カワセミ　コサギ
②　芦原・ 上流のせせらぎ	ハクセキレイ　キセキレイ　シジュウカラ　アオジ　メジロ ヤマルリビタキ
③　樹林の縁・開けた場所	ヒヨドリ　ムクドリ　ツグミ　ジョウビタキ　モズ
④　樹林	コゲラ　シロハラ　エナガ　シメ

＊カルガモ（カモ目カモ科）都市の池や河川で普通に観られる留鳥。雄と雌は同じ色彩。
嘴だけ黄色。周辺の草むらに巣を作る。雌のみで子育てをする。

身近な鳥のふしぎ　（細川博昭　著）

・シジュウカラ（スズメ目シジュウカラ科）
「ツツピーツツピー」とよく響く声でさえずる。産卵は８個～１０個。メスは器用にそれを抱く。
卵の重量総和は雌の体重に匹敵するほどになる。それほどの卵をわずか１０日間で産み終えるのも驚異だが、抱卵期間中ずっと、メスにエサを運び続けるオスの苦労も相当なものとなる。

・ツバメ（スズメ目ツバメ科）
多くの鳥にとって、羽ばたきのような単純な動作は眠っていても可能である。渡りをしているツバメは飛行中に眠ることがあるかもしれない。鳥の睡眠単位は数分と短く、短い眠りを幾度も繰り返すことで十分な睡眠を確保することが出来る。ツバメが育雛のための巣は藁・枯草・泥を自分の唾液で作る。

・コゲラ（キツツキ目キツツキ科）
こんにちでは都市部でも見られるようになったが、かつては里山から深山の鳥であった。
コゲラが留鳥として、一年を通して都市の中で暮らすようになったのは１９８０年代以降。
キツツキ類の古名は「てらつつき」平安時代にはそう呼ばれていたが、理由は不明。

鳥の鳴き声（一部）

・カワセミ（チーッ　チーッ）　・エナガ（ジュルリ　ジュルリ）　・メジロ（チーチーチュル）
・アオジ（シッ　シッ）　・シメ（チチィと鋭い）　・コサギ（グワー）　・ムクドリ（キュルキュル）
・シロハラ（キョッキョ）　・コゲラ（ギィー）　・モズ（キイーキイー）
・シジュウカラ（ジュクジュクツピー）　・ジョウビタキ（ヒイヒイ）

＊「百人一首」に詠まれている「鳥」を探索してみましょう！

百人一首　「鳥の五首」・・・なぜかいずれも夜に登場

・あしびきの山鳥の尾のしだり尾の　ながながし夜をひとりかも寝む　柿本人麿

・かささぎの渡せる橋に置く霜の　白きを見れば夜ぞふけにける　中納言家持

・夜をこめて鳥の空音ははかるとも　よに逢坂の関はゆるさじ　清少納言

・淡路島かよふ千鳥のなく声に　幾夜ねざめぬ須磨の関守　源　兼昌

・ほととぎす鳴きつる方をながむれば　ただ有明の月ぞ残れる　後徳大寺左大臣